

呼吸器外科

【概要】

呼吸器外科では胸部悪性疾患（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、等）、良性疾患（気胸、肺嚢胞症、等）を呼吸器腫瘍センターで、感染性疾患の治療を呼吸器感染症センターで行っています。

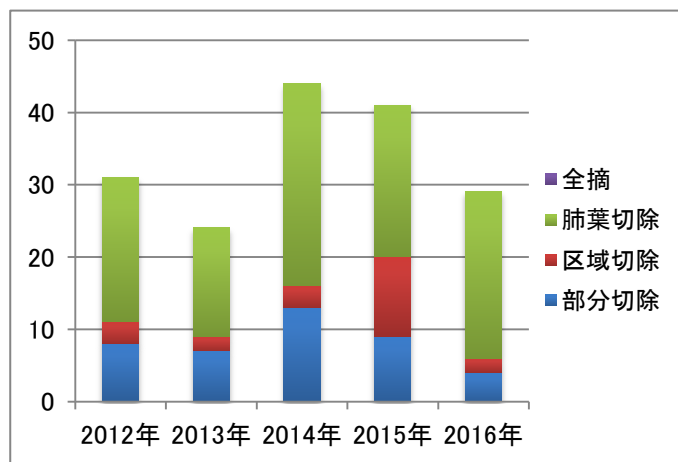
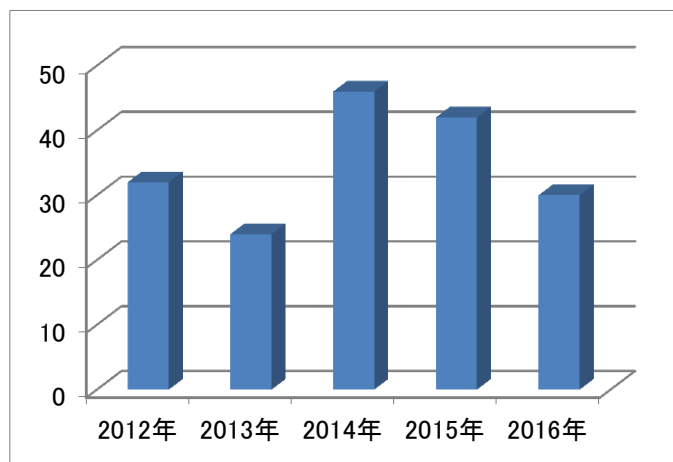
2016年の全手術症例数は67例、原発性肺癌手術症例数は30例と前年度と比較し減少しました。しかし、当科では呼吸器腫瘍センターとしての役割も果たしており、手術治療を選択されず抗がん剤治療や放射線治療を選択された患者の治療も行っており、原発性肺癌治療を行った患者数では昨年より増えています。当院での肺癌手術治療は多くの症例で内視鏡（胸腔鏡）を使用して手術を行います。進行肺癌に対しては開胸で拡大手術にも取り組んでいます。開胸手術は4例に行いました。このように複雑な手術や、リスクの高い手術に関しては胸腔鏡手術では対応できない症例があります。肺癌治療の基本は根治性を損なわない事が第一であります。

また昨年は、臨床研究結果をウイーンで開催された世界肺癌学会（The **International Association for the Study of Lung Cancer :IASLC**）で発表をおこない、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社に評価を頂き、学会発表要旨・記録集に取り上げて頂きました。

このように、当科の基本的治療方針である“患者様が受けてたい治療施設となれるように、最良治療の提供”が実現できるように、臨床・研究において日々精進しております。本年もよろしく願いいたします。

【原発性肺癌手術症例数】

年度	2012	2013	2014	2015	2016
手術症例数	32	24	46	42	30



【原發性肺癌術後生存率】

